台大日本語文研究第 8 期
2005 年 6 月，頁 125-144
本文 2005. 4. 29 收稿，2005. 6. 21 通過刊登

「ナル」的多重語義結構

蘇　文郎 *

摘　要

過去針對日語「ナル」的用法常被定位爲表變化的動詞，且探討的重點大都偏向「ナル」和結果狀態間的句法結構特徵。「ナル」除了表變化的概念外，還有其他多種用法，這一點在過去的研究常被忽略。本論文依下列順序，分析「ナル」的多重語義結構。

（１） 依「ナル」所要求的結果補語及語彙概念結構（LCS）進行「ナル」的語義分析，確認了「ナル」具有基本語義（第１義）外，另具有３種衍生義（第２義～第４義），進而探討衍生義的產生原理。

（２） 分析虛詞化，亦即轉換爲表對人敘述態度的「Ｎニ／ト　ナル」及具有子句接續功能的「Ｎニ／ト　ナルト」的句法結構及語義特徵。

（３） 探討「ナル」各種非變化用法成立的特徵及相互之間的連續性。

另外針對「ナル」的慣用句嘗試從認知語言學的觀點詳加以分類及討論。

關鍵詞：ナル、多重語義結構、衍生義、語義擴張、虛詞化

* 政治大學日本語文學系副教授。

臺灣大學學術期刊資料庫

A Study of the Polysemic Structure of *Naru*

Soo, Wen-lang *

Abstract

This paper aims to describe the semantic structure of "*naru*". *Naru* is a kind of change-of-state verb, and its point of view lies at the goal (or result) of the change-of-state. In this paper I focus on the polysemic aspect of *naru*, and analyze how the meaning is extended from the basical meaning to metaphorical meaning. The main points discussed include:

(1) *Naru* has one basic meaning and three extended meanings.

(2) Besides lexical meaning, *naru* also has grammatical meanings for modality use.

(3) The propeties of situations which allow the metaphorical extension of the meaning of *naru*.

In addition, this paper attempts to clarify the unique characteristics of idioms which contain "(noun) ni / to *naru*" pattern from the viewpoints of cognitive semantics.

Key words: naru, polysemic structure, metaphorical extension, grammaticalization

* Associate Professor, National Cheng-Chi University.

臺灣大學學術期刊資料庫

「ナル」の多義構造

蘇　文郎 *

要　旨

「ナル」は「変化」を表し、常に変化の結果状態に視点がある動詞とされている。「ナル」は多様な意味用法があるが、これまでその意味は充分に分析されているとは言えない。本稿では次の手順に「ナル」の多義構造を分析した。

まず「ナル」がとる項構造と、語彙概念構造による意味分析を行い、基本義（第１義）と派生義（第２義～第４義）を認定、さらに各々即ち派生義が生じる仕組みについて考察した。次に文法化したもの、即ち話し相手に対する丁寧さを表すモダリティ用法への転換、及び二つの節を結ぶテキスト機能の「Ｎニ／ト　ナルト」についても言及した。そして「ナル」は事態を「変化」と捉える場合に用いられるが、物理的に変化がないにもかかわらず、「ナル」を用いることが可能な事態の性質を説明した。なお、「ナル」が用いられる慣用句の下位分類やそれぞれの類型の意味用法の特徴について認知言語学的観点から考察した。

キーワード：ナル、多義構造、派生義、意味拡張、文法化

* 政治大学日本語文学科助教授。

臺灣大學學術期刊資料庫

「ナル」の多義構造

一、はじめに

動詞「ナル」はさまざまな意味を担う多義語[1]である。本稿では主に変化の意味を表し、そして「N_1（変化主体）ガN_2ニ/ト（変化結果)」の格支配をする「ナル」の句や文を扱い、「ナル」の多義構造を明らかにしようとするものである。具体的にこの「ナル」動詞の連続的に変化する意味の中で、節目をなすような例を取りあげて意味成分の違いを指摘するとともに、それぞれがいかなる原理によって派生したものであるかを分析する。

（一）変化動詞「ナル」の項構造と語彙概念構造

状態変化を表す「ナル」は次のような項構造と統語構造を持つ非対格動詞（unaccusative verb）である。

項構造：　〈Th、 Go〉

統語構造：　ガ　ニ/ト

主として状態や位置が変化するものに、対象物（Theme）―を主語に取る動詞で、これらの主語が自らの意志で動作するのではなく、自然に何らかの変化を被って他のものや状態、位置―着点（Goal）に変わるという意味特徴を持っている。「ナル」の持つ基本義を語彙概念構造で表すと次のようになる。

〔BECOME〔y BE AT-z〕〕[2]

すなわち状態変化動詞「ナル」は概念構造においてBECOMEを持ち、これが「変化」を表す。そして変化後の結果状態はAT-として表される。このAT-zはBEという述語を介して、内項y（Theme）の有様を叙述している。そしてAT-という場所概念は日本語では「ニ」や「ト」という格助詞で表される。

例：　信号が赤になる。

---

[1] 多義語（polysemic word）とは同一の音形に意味的に何らかの関連を持つ二つ以上の意味が結び付いている語を言う。（國廣 1982：97による）

[2] 影山（1996：66）参照

臺灣大學學術期刊資料庫

項構造：〈Th、Go〉

意味構造：〈変化主体〉ガ〈結果状態〉ニ/ト

ところが以下の実例を通して「ナル」が変化の意味を表す以外に、「変化」の基本義を逸脱した用法も数多く存在していることに気がつく。

（二）「ナル」の意味の本質

1. 信号が青になった。
2. 2000 年 1～3 月期の実質成長は前期比年率 10%となり、９９年度平均でも 3 年ぶりにプラス成長となった。
3. 会議室は階段を上がった二階になります。
4. この車両は女性専用となります。
5. シーズンの折り返しとなる68 試合目は打線に自信を付けさせる大事な節目となったはずだ。
6. 春希が撮影場を首になった。
7. これじゃ、仕事にならないということがおわかりでしょうか。
8. 最終報告書は現場教師には大いに参考になるのではないか。

（1～8 は（蘇 2001）から例文再録）

以上の例文から「ナル」は変化の意味を（例 1、2）表すほか、実際には変化の意味を失い、もっぱら発話時における話者の心的態度（モダリティ）（例 3、4）や認識（例 5）などを表していると思われる用法が数多くあることが分かった。なお構文的には能動文であるが受動的意味が含意されている用法（例 6）もずいぶん見うけられる。そして例 7、8 のように項構造が変わっていないが文字通りに意味解釈できない、変化から可能へと意味拡張する用法も少なからずあった。

二、 従来の「ナル」の扱い方と本稿の目的

従来の国語辞典類[3]はこの語が持つ多くの意味を掲げているが、

[3] たとえば『日本語国語大辞典』（小学館）では変化動詞としての「ナル」の

臺灣大學學術期刊資料庫

その意味記述が諸意味を列記してそれらの間の関係は問わないのが実状である。また日本語教育の観点から書かれたものとして小泉他（1989）があるが、「ナル」については、多義派生の原理からでなく、単に見る対象を示す補語という文脈に依存した分類をして、別義として 19 の項目にも細分化している。「ナル」自体の多義性には焦点があてられていないし、意味相互の関連性も無視されている。これは一つの多義語を全体的に理解しようとするときはあまり助けにはならない。[4]

近年盛んになった認知意味論の研究[5]では諸意味を出来る限り相互連関的に結びつけ、多義を支配する統一的な原理を見出そうとするアプローチのしかたがとられている。それによって多義語のより本質的な理解が出来ることを出している。

本稿の目的は認知言語学の観点をもとりいれ、「ナル」の多義の相互連関的、統合的解釈を試みることにある。この観点からの分析は「ナル」の全体像を捉える上で有意義だと思われるからである。

三、 「ナル」の多義構造

（一）基本義

あるものや状態から他のものや状態に変わる。

--基本義〈第 1 義〉

意味について次の通りに記述されている。<二>（成：爲）あるものや、状態から他のものや、状態に変わる。①あるものから他のものに変化する。②ある状態から他の状態に移り変わる、また、ある状態に達する。③その時刻や時期に達する。その時に至る、また、時が経過する。④ある場所やある高さに達する。⑤官職に任ぜられる。任命される。⑥みじめな状態になる、おちぶれる。→なれる果て⑦将棋で王将、金将以外の駒が敵陣の三段目以内にはいったり、そこで動いたりしてその性能が変わる。飛車は龍王に、角行は龍王に、小駒は金将と同等の性能になり、駒を裏返すことによって表す。

4 多義語のあるべき記述のしかたについては國廣（1999）は多義は一つの基本義から派生するという形で生じるものであるから、基本義か現象素をまず設定しそこから意味的あるいは認知的な関連性を確かめながら、多義を配列してゆくべきであると主張している。

5 認知意味論の研究には中右実（1994）、國廣哲彌（1999）、松本曜（2003）、籾山洋介（2003）などがある。

臺灣大學學術期刊資料庫

9. 青になる／はだかになる／敵になる／夜になる／ひとりになる／大人になる／いい天気になる。

変化の意味を表す「ナル」の基本義は「あるものや状態からそれとは違うものや状態に変わる」ということになる。そして「N_1ガN_2ニ/ト　ナル」形式の変化構文は変化の主体「N_1」がある過程を経て、「N_2ニ/ト」で表される変化後の状態に至るという基本的意味を表す。

変化結果を表す補語は「ナル」の意味を判断する上で最も決定的な情報を提供する言語的文脈である。

また前接の結果補語に来る語に意味的制約の有無という観点から9に掲げた例の場合は制約がないのに対して、

10. 失敗がいい薬になる。

11. この話は金になるよ。

10、11 の「薬になる」「金になる」の場合は制約があるということが分かる。10 と 11 の「薬になる」「金になる」は着点（Goal）があって起点（Source）がないのが、9 の諸例文と対照的である。以上から「ナル」は状態変化を表す 9 の意味のほうがプロトタイプ的意味的（基本的な意味）[6] であることになる。10、11 はそれぞれ「損なわれた体や心が回復する効果のある物事」、すなわち「あるものの、用を果す」、「それによって金銭が（たくさん）手に入る、もうかる」という意味縮小による意味の特殊化（semantic specialization）が生じる比喩的な用法になる。比喩的用法は非プロトタイプ的意味と認定する。これについては３－７で一節を設けて論ずる。

[6]　プロトタイプ（典型、原型；prototype）は認知意味論における基本概念の一つである。この概念を中心に語の意味を規定しようとするのがプロトタイプ意味論（典型意味論；prototype semantics）である。プロトタイプ意味論ではある意味がカテゴリーに属する成員は均等ではなく、そのなかに典型的ケースと周辺的なケースがあることを認め、その典型的なケースに注目して記述を行う。

（二）思考過程の結果としての結論---〈認識、判断〉を表す派生義〈第 2 義〉

12. しかし、日本が 1%成長では小さい。3%成長を目指せというサマーズ長官のメッセージは実は市場が円買いを準備する布石になる。（毎日 2000）

13. さしずめ、田上先生は三浦環の弟子、そして光栄にもこの私は曽孫弟子になる。（筑波山）

このタイプの変化動詞「ナル」は思考過程の結果としての結論が典型的な変化の過程における変化後の状態になぞえられるものと考えてもいい。

14. 当時はまだ閉山などは考えられないほど活況を呈していて、棟割長屋のいわゆる〝炭住〟の一部がわれわれ教員の宿舎にあてられていたのである。思い返せば、私は現在の山に入るまでの二十数年を長屋住まいでとおしてきたことになる。（筑波山）

15. これは普通の折れ方じゃないぞ。やはりここを泡の暴風が通ったのじゃないだろうか。もしそうだとすると、この松と宿舎のあった地点を結ぶ北東方向の線上に宿舎はとばされているということになる。（高熱）

12、13 の「名詞ニ/トナル」と 14、15 の「（補文）コトニナル」の二つの表現を比べてみると、「～コトニナル」の方は具体的な判断材料の存在を前提にして、推論部分を取り込んだ〈判断・認識〉を表すのに対して、「名詞ニ/トナル」は推論部分を取り込まれていないが、やはり話し手が推論に基づいた上でその結論を得たという意味にとらえられる。したがって、いずれも推論される行為が語の意味に転化したもので、第 1 義からこの第 2 義を派生するプロセスの延長線と言えよう。[7]

[7] 『ことになる』と「ことになっている」の意味用法の違いについて、蘇（2002：446～451）で論述があるので、詳しくはそれをご参照されたい。

臺灣大學學術典藏資料庫

この「ナル」による意味拡張は話者の認知の仕組みを反映する主観的なものである。認知文法ではこの現象を主体化（subjectification）という。いわば、ここでいう主体化は「変化」の意味内容を持つ語彙「ナル」が徐々にその意味内容を希薄化させ、表さなくなり、そこに反映している認知のプロセスのみと対応するようになる過程である。[8]

なお、このタイプの構文形式の特徴の一つとして、〈認識、判断〉の結果を表す「N_2」は形式名詞「コト」と同格の関係にある「命題」（Proposition）であることが多い上に、「N_1」は文中に現れることが少ないことが分かる。

（三）受身要素が背景化し、ついには捨象化された派生義…受身〈第3義〉

16. 公務員などほかの公職の場合、有罪となった人は懲戒免職になるなどして仕事を追われるのに、彼らが立候補することは庶民感情としては受け入れられない。（毎日 2000）

17. 年齢を重ね、練習を積んで、いつか巧者になり、他人や世間から評判になると慢心が生じる。（毎日 2000）

18. 面接さえ受けられなかったり、面接は受けても不採用になるのがほとんどです。（毎日 2000）

これらの「ナル」は他動詞系の動名詞（verbal noun）と結んでいて、全体で他動詞の受動系相当の「サレル」という意味に変質する。「ナル」にいいかえられることによって受身の要素が締め出され、捨象されたものとして「結果状態」の意味が派生されたと考えることができる。そのプロセスは受身要素の痕跡を示す次の 19、20 のような例に見てとれる。

19. 2001 年 4 月から財政投融改革が動き出す。財投機関の多くを占める特殊法人が原則全廃されれば、財投そのもの抜本的な見直しを迫られることになる。・・・第三に特殊人全廃とな

8　中村芳久（2004：21～23）参照。

臺灣大學學術期刊資料庫

れば官僚の天下がり先が大幅に減り、公務員改革を促進することにもなる。（毎日 2000）

20. 事件となった 2 件は後者である。一方は殺人罪で起訴され、もう一方は不起訴となった。（毎日 2000）

19、20 には一つの文の中でその両文が対立する形（受身と能動）で現れている。むろん後者の能動形の「ナル」は受身の意味に解釈できる。言い換えれば、意味の上から「サレル」による本質受動文も「ニ/トナル」による意味受動文もそれぞれ表している意味は同じであることになる。違いは話し手の事柄に対する認知のしかた、すなわち認知主導の構文構築か動詞主導の構文構築かである。「サレル」構文は「人が外部から働きかけた結果」というニュアンスを強く表現しているのに対して、「ニ/トナル」構文は「自分の意思とは関係なしに行われた結果」や「人が働きかけた結果というより自然そうなった」というニュアンスを示している。因みに、「サレル」構文において下例のように必要なときに動作主を文脈中に明示できるのに対して、「ニ/トナル」構文では殆どの場合それができない。明示すると非文となる。[9]

21. 植民地時代、被統治者は統治者に母語の使用を禁止された。

×21 植民地時代、被統治者は統治者に母語の使用を禁止になった。

またこの場合、文の項構造は述語動詞「ナル」によって決まるのではなく、動名詞の項構造がそのまま受け継がれ、動名詞の項構造の中で受身の動詞に関する「ヴォイス」（voice）の変化が起こっていることも観察できる。これらの意味で使われている「ナル」は軽動詞（light verb）として使われていると思われる。

（四）自発的意味原型からの派生義---〈可能〉〈第４義〉

受身の意味と並んで、「ナル」の能動表現に生じやすいもう一つの意味要素は可能の意味である。可能の意味は次の例からも分かるよ

[9] この本質受動文と意味受動文の言い換えが成立する動詞の語用条件や意味的制約について、蘇（2001：19～21）で詳しい考察があるので、それをご参照されたい。

臺灣大學學術期刊資料庫

うに特に「ナル」の否定表現になることが多い。

22. このように電話の応対ばかりさせられてはとても仕事にならないよ。

23.「朝練」言ってみれば、早期に近所の散歩をしているようなもの。はっきり言って、彼には何の練習にもならない。（五体不満足）

22、23 は形の上では単独の自動詞に否定形態素「ない」が付いたものであるにすぎないが、それぞれ「仕事ができない」「練習できない」などと置き換えてもいいということからも、やはり可能の意味が絡んでいることがわかる。

24. 最終報告書は現場教師には大いに参考になるのではないか。

25. 犯罪少年を強制的に排除するなどの方法だけでは再発防止になるとは思わない。（毎日 2000）

自発的状態変化と可能のこうした意味的関連性は「ナル」の肯定表現（24、25）にもよく示されている。

26. 手伝うことが増え、いつかそれが私の主な仕事になるだろう。〈自発的変化〉

27. これからはもっとハードな練習になる。〈自発的変化〉

26、27 と 22～25 の例を照らし合わせると 26、27 のような自発的（状態変化）意味から 22～25 のような可能な意味への発達が見られる。

「ニ/トナル」形式の構文がなぜ可能の意味を表すことができるかを考えるにはもう一度「ナル」の持つ本質的な語義の検討に立ち返らなければならない。「ナル」は先述したように「ある状態からそれとは違う状態に移行する」という基本義を持っているほか、「可能」の意味もある。

（五）話し相手に対する丁寧さを表すモダリティ用法への転換---〈文法化〉

「ナル」の意味用法転換の問題について、もう一つ注目すべき現象の一つに、内容語（content word）である動詞「ナル」の語彙の

臺灣大學學術期刊資料庫

要素が機能語（function word）の文法的要素に変化するという現象がある。この言語現象は文法化（grammaticalization）[10]と呼ばれている。

28. この車両は女性専用となります。（ＪＲの車両案内）

29. 対象車両はキャンペーン期間中のジャガージャパンならび正規販売店におけるストック車両（新車）となります。（ジャガーセンクーション 21 キャンペーン）

30. お一人様で第1回､第2回の両方に応募することができます。ただし､2回の応募期間を通して当選は一回のみとなります。（読売　2000）

31. ツアーは成田空港発着となります。国内での交通費や宿泊費、またパスポート取得の渡航手続き費用、任意海外旅行保険料並びに旅行中の個人的諸費用はご当選者のご負担となります。（　〃　）

三の（二）で考察した第２義「認識・判断」を表す「ニ/トナル」と違って、上に挙げた 28,29,30,31 の「ニ/トナル」は発話時における話し手の心的態度、または対人態度のモダリティが含意されていることが認められる。

この文型の「ナル」は「変化」という基本的意味から大きく逸脱している。上掲した 28～31 の各例文には状態変化の意味は認められない。このタイプの文はコピュラ「N_1はN_2です」の文に置き換えても意味が大きく変わらないが、コピュラ文と比較してみれば、発話時における話し手の心的態度の表現、つまり丁寧さを示す対人態度のモダリティが含意されているということがうかがえる。以上の各例文に共通して見られる特徴は、次のようにまとめられる。

１）形態的に常に丁寧体の「ます形」が使われている。

２）雰囲気的に話者の側に責任があることがら、あるいは聞き手に言いづらさがあることを述べている文脈である。

[10] 松本（2003）では文法化とは自立語であったものに文法的特性が付与されるようになることであると定義している。

臺灣大學學術期刊資料庫

[11]

１）と２）が互いに関連しあっていることは自明である。つまりこうしたお客さんなどの部外者である相手に何か言いづらさがあることを納得してもらおうとする状況では丁寧体を使うことによって、普通体を使うときよりいっそう丁寧な表現になる。では、コピュラ文の「N_1はN_2です」ないし「N_1はN_2でございます」だけで十分ではないかと言いたくなるが、上述した文脈ではやはりこのような言い方になってしまうのである。このような「ナル」を好む傾向は日本語の中に非常に強く根ざしているようである。

次の 32～34 のような例文に示されるもう一つのモダリティ用法がある。

32. 私たちはこの度結婚することになりました。

33. ここは禁煙となっています。

34. 後へお下がりください、電車が到着になります。（池上 1982 からの借例）

32 の〈結婚する〉ということに関しては当然二人の主体的な意志決定が存在したはずであるが、この表現ではそのようなものは表出されずに、自分たちの意志などといったものを越えた何かによってそのような事態に立ち至ったという感じである。「私たちはこのたび結婚することにしました」のような言い方に変えてしまうと自己の判断や意志を断定的に述べる表現形式になる。それには発言内容に対する発言者の関与（保証）を暗示する。それに伴って生じるかもしれない責任の可能性を前もって排除しておく心理で“周囲の状況または自然のなりゆきによってそうなる”という意味特徴を持つ「なる」を使ってしまうのである。33 と 34 の文をそれぞれ非変化構文「ここは禁煙です」「後へお下がりください、電車が到着します」に置き換えてみるとその違いがよく分かる。

言いかえれば「なる」構文を使うことによって話者が自己の判断

[11] 佐藤琢三（1997）参照

臺灣大學學術期刊資料庫

を断定的に述べることを避ける、いわば事態に対する責任をあいまいなものにする。そして発話の効力が直接性を軽減し、聞き手との摩擦を緩和するという対人機能をも果たす、婉曲的な表現として働くことになる。

「ここは禁煙です」の言い方はきっぱりと言い切っている感じを与えるし、「電車が到着します」には「電車が到着すると私は宣言する」という意味構造を有し、アナウンスした人間として電車の到着についての責任を負うという意味合いを伴う。[12]

要するに、状態を表す「ダ、デス」や行為を表す「スル、シマス」よりも、変化を表す「ナル、ナリマス」のほうが既存状態の事実性や動作主の意欲性を含まず、単なる自体の変化として命題を陳述するという機能があるということである。この二つの側面が重なり合い、「こうこうです」と状態助動詞「デス」で状態を判断したり、「こうこうした」と行動動詞「シマス」で行動を宣告したりするよりも、「こうこうなります」と変化動詞「ナリマス」のなりゆきを伝達するほうが丁寧さが増すものと思われる。

「ナル」が語彙的要素から文法的要素へと至る途中には両方の用法が共存する段階があることが上の諸例文から見てとれる。

（六）「ナル」が用いられる慣用句[13]に見られる意味拡張

前節の三の（一）～（五）で、「ナル」の基本義及びそこからなんらかの仕方で派生された、あるいは転用された色々な派生義を見てきた。以上の考察で分かったことは派生ないし転用のすがたはさまざまであるが、その多くは「比喩」と結びつけられることである。以下比喩にどのような種類があり、また具体的にどの表現形式をどのタイプと認めるかについて、考えてみることにする。

---

12 池上（1982：103）参照。

13 本論文は町田（1995：116）の定義にしたがい、個々の語が単独で使われるときの意味が分かっていても、句全体の意味が分からないもの、あるいは文字通り以外の意味を持つものを慣用句とする。そして、以下にあげる「Nになる」形式のものは比喩（隠喩、換喩、提喩）に基づき、慣用的意味が成立していると考える。

臺灣人文學術期刊資料庫

意味の拡張を生じさせる比喩の重要な下位類として、メタファー、シネクドキー、メトニミーという 3 種類が認められる。この 3 種類の比喩は「ナル」の多義語の複数の意味を関連づける重要なメカニズムであると言えよう。

では①メタファー②シネクドキー③メトニミーの定義と具体例を見てみよう。

①メタファー：(隠喩;metaphor)

二つの事物､概念の何らかの類似性に基づいて､一方の事物、概念を表す形式を用いて他方の事物、意味拡張／類義性概念を表す比喩。

35. 強い風にあおられて、傘が御猪口になってしまった。(学研国語)

この例における「お猪口になってしまった」はもちろん傘が御猪口というものに変化したことを表しているのではない。開いた傘が強い風にあおられて裏返しになったという類似性に基づき、御猪口という語を使っていることになる。

このタイプに属する実例は外にも、例えば、蛇足になる…などがある。

② シネクドキー：(提喩；synechdoche)

より一般的意味を持つ形を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆により特殊な意味を持つ形式を用いて、より一般的な意味を表す比喩。

36. 彼の着物姿はてんで様にならない。(学研国語)

37. 謡を習ったり、又あるときはヴィオリンなどをブーブー鳴らしたりするが、気の毒なことにはどれもこれもものになって居らん。(夏目漱石　我が輩)　(学研国語)

例 36 の「様になる」は、かっこうがつく、それらしくなる、あるべきようになるの意味、そして、例 37 の「ものになる」は[人物や仕事などが]ねらい、目的にかなったものとなる、それにふさわしいものとして実現されるという意味を表すことである。すなわち、

臺灣大學學術期刊資料庫

これら（肯定形）はいずれもより特殊な意味を表していることに加えて、何らかの意味でプラス方向に限定された意味（相対的に優れている、あるいは好ましいなど）を表しているという共通点がある。

③ メトニミー：(換喩；metonymy)

二つの事物の外界における隣接性、さらに広く二つの事物、概念の思考的、概念上の関連性に基づいて一方の事物、概念を表す形式を用いて、他方の事物、概念を表す比喩。[14]

38.戦争で持ち物が全部灰になった。

39.おれたちが一緒になった年に浦上を歩いたとき、お前はなんというた。(学研国語)

38の「灰になった」は字義通りには「物が燃えたあとに粉状のものになる」という意味になるが、38では「焼けてしまう、焼失してしまう」という意味を表す。39の「一緒になる」は字義通りには「二つ以上のものが一つになる」ということであるが、39のように慣用的意味として「夫婦になる」という意味を表す。このタイプの比喩の例には〝水になる／土になる…〞などがある。

（七）二つの節を結ぶテキスト機能の「ナル」

本稿の中心課題からすこしずれているかもしれないが、文法化(grammaticalization)との関連で「ナル」の多義構造を体系的に考えるにはもう一つ見のがせない次の用法がある。

40. N（のこと）トナルト、.....

41. この2年余、医療改革の各論をまとめる段階になると、医師会など診療側と保険料を支払う側との意見が対立、そのたびに医師会は強い政治力にモノを言わせ、言い分を通してきたケースが目立つ。(毎日 2000)

42. 練習ではうまくいったのにいざ本番になると上がってしまいました。(日本語文型辞典)

43. 青木長官はとくに入院直後の記者会見で詳しい病状になる

[14] 以上のメアファー、シネクドキー、メトニミーの定義は松本（2003）によるものである。

臺灣大學學術期刊資料庫

と、専門の医師ではないので分からないと答えた。(同上)

44. 申告分離課税になると、損益を確定するための、株式取得価格が分からないケースも多いという声がある。(同上)

45. 学校や生徒の判断で別の形の卒業式を計画しているところに対して、画一的な横並びを強制すべきではない。特に高校生ともなると、どんな卒業式にしたいかを自分たちで考え、判断する過程体験は重要だ。(毎日 2000)

46. 主婦ともなれば、朝寝坊していられない。(日本語文型辞典)

例 41～46 のような複文における「ナル」は文と文をつなぐ接続表現として〝名詞トナルト〞の形で用いられる。「ニナルト」という形でもいい。名詞を受け、「あるレベル、ある段階に至ったときに」(41,42)、「そのことが話題/問題になるときは」(43,44) や「状況がこのようなものに至った場合は」(45,46) という意味を表す。例 45、46 のように時間や年齢、役割などの名詞を受けて、状況が「このようなものに至った場合は」という意味を表す場合には、「トモナルト」ともいう。

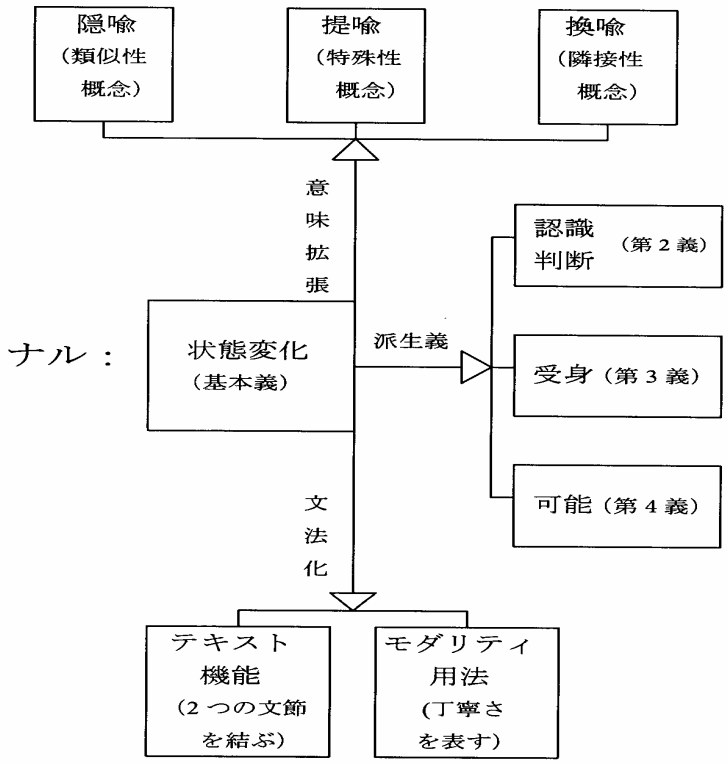
このような用法には「ナル」が一般的な語彙が文法要素へと拡張しているのが見てとれる。やはり一つの文法化の現象と見てもさしつかえない。

四、結論

以上のように、筆者は「ナル」の多義構造の実態を明らかにした。これらの考察結果をまとめると、図 1 のようになる。

臺灣大學學術期刊資料庫

図 1　「ナル」の多義構造



認知言語学的観点を通して、述語動詞「ナル」による構文には、変化の基本義に固定した意味構造に忠実に従って動詞主導の構文構築が行われる場合と、動詞の意味構造から離れて認知主導で構文構築が行われる場合があることが明らかになった。そして動詞主導と認知主導の構築原理の相互作用による用法も存在することが分かった。

なお「ナル」には本来「変化」を表していたのが、「そのことが話題/問題になるときは」という二つの節を結ぶテキスト機能を帯び、最後は主体化、文法化による話し手の心的態度を意味として表すという具合に、「命題的意味」「テキスト機能的意味」「心的態度」を合わせ持っていることも解明できた。

もっとも「ナル」の多義性の問題がこれですべて究明できたわけではない。慣用句にみられる三つのタイプの意味拡張や派生義の成立過程や多義解釈可能の原理など不明なところはまだたくさんある。これらの問題も含めて、今回触れられなかった問題を今後の研究課題としていきたい。

臺灣大學學術期刊資料庫

参考文献

安達太郎（1997)「「なる」による変化構文の意味と用法」『広島女子大学国際文化部紀要』　第4号

池上嘉彦（1981)『すると「なる」の言語学』大修館書店

池上嘉彦（1982)「表現構造の比較－〈スル〉的な言語と〈ナル〉的な言語－」『日英語比較講座発想と表現　第4巻』大修館書店

ウエスリー・M・ヤコブセン（1989)「他動性とプロトタイプ論」『日本語学の新展開』　柴谷方良他編　くろしお出版

影山太郎（1996)『動詞意味論』くろしお出版

國廣哲彌（1982)『意味論の方法』大修館書店

國廣哲彌（1999)「認知的多義論－現象素の提唱」『言語研究』106号

佐藤琢三（1997)「ナルの表現と丁寧さ」『文教大学国文』26

蘇文郎（2001)「変化表現について一考察」『東呉日本語教育学報』24号

――――（2002)「変化表現Ⅱ―「～ことになる」「～ようになる」及びモダリティ形式化した「なる」を中心に―」『蔡茂豊教授古希記念論文集』

――――（2004)「日本語の変化表現に関する一考察――テンス、アスペクト、モダリティを中心に――」『台湾日本語文学報』第19号

――――（2005)「N ニ/トナルの非変化的用法及び他の表現との連続性」『政大日本研究』第二号

辻幸夫（2003)『認知言語学への招待』大修館書店

中右実（1994)『認知意味論の原理』大修館書店

中村芳久（2004)『認知文法論』大修館書店

町田健他著（1995)『よくわかる言語学入門』バベル・プレス

松本曜（2003)『認知意味論』大修館書店

籾山洋山他（2003)「多義性」『認知意味論』松本曜編　大修館書店

山田進（1995)「多義語の意味記述についての覚書」『聖心女子大学

臺灣大學學術期刊資料庫

論叢』92 号
山梨正明（1995）『認知文法論』ひつじ書房

辞典
広辞苑　第五版　岩波書店　1998
学研国語大辞典　金田一春彦他編　1978
日本語基本動詞用法辞典　小泉保他編　大修館書店　1989
日本国語大辞典　小学館　1973
日本語文型辞典　砂川有利子他編　くろしお出版　1998

臺灣大學學術期刊資料庫